

兵庫 県職労ニュース

No. 号外

2021. 2. 3

兵庫県職員労働組合
情報宣伝部

金本 信二

20 人員・職場要求 県立大学要求に関する「企画県民部・大学本部」交渉

増員要求に対し「行財政運営方針」を強調

分会代表から現場実情を訴え、人員と予算確保へ向けた最大限の対応を確認

12月25日、県立大学関係の団体交渉を実施した。今期は、新型コロナウイルス感染症対策も加わり、大学現場を支える事務部門の実情を、分会代表から実態を伝えながら、企画県民部総務課・大学課・大学本部に対し追及を行い、入試等の繁忙期を見据えた対応も確認。増員要求に加え、事務システムの全面改修等の業務縮減に繋がる取り組みも継続するよう要請した。新年度へ向けては、十分な予算と当局責任による人員体制確保、姫路工学部全室の人材確保、理学キャンパスにおける対応改善等について確認・要請を行った。

【当局回答要旨】
団体交渉確認事項の遵守

(回答)平成24年2月2日の法人への移行に関する交渉において、企画県民部より、県からの派遣職員の待遇、労働条件については、責任をもって対応する旨回答しており、県としてきっちりと指導していく。

人員要求

(回答)定員は行財政運営方針において「平成30年4月1日時点の職員数を基本とする」とされており、引き続き、簡素で効率的な組織体制を維持しつつ日々の課題に的確に対応できる業務執行体制を確保したい。また、関係部局等とも十分協議・調整を行う。

(神戸商科)国際交流・学生課1名、学務課1名(会計研究科担当)

(回答)大規模キャンパスでの学生対応、コロナ禍における留学生入国受入れ対応、大学院再編による社会科学部研究科開設に向けた準備など大変ご尽力いただいている。

(姫路工学)総務課1名、学務課1名

(回答)学務課では大規模キャンパスにおける学生対応やコロナ対応、総務課ではキャンパスの建替整備にあたり大変ご尽力いただいている。

(播磨理学)学務課1名の増員要求

(回答)新型コロナウイルスの影響により奨学金業務等が質量ともに増大し大変ご尽力いただいている。

(神戸商科)国際交流学生課、学務課、総務課フルタイム勤務が可能な正規職員の配置。正規職員の定年・転勤・退職、育児休業の際の正規補充

(回答)業務が円滑に執行されるよう、事務事業の見直しや事務執行方法の見直しを行い、関係部局とも十分に協議・調整を行う中で、県立大学組織全体として効率的な組織体制の検討と適正な人員配置となるよう努めたい。

【神戸商科】障害学生支援担当コーディネーター、欠員1名補充

(回答)昨年度から、障がい学生支援を専門に行う社会福祉法人等とのコンサルテーション契約を締結するとともに、医師、看護師、臨床心理士等の専門家に派遣依頼できる体制を整えた。障がい学生支援の観点から、業務量や業務内容を勘案した上で、引き続き円滑な相談支援体制の確保に努めていきたい。

(神戸商科)保健室の2名体制維持

(回答)GBC留学生の相談業務や、新型コロナウイルス感染症へのきめ細かな対応等に尽力いただいていることは十分認識している。また、心の健康相談等の充実が必要であることも認識しており、学生の健康管理等の観点からも、保健室の利用状況や業務内容等も勘案した上で、適正な配置に努めたい。

(姫路工学・保全室)設備運営の人材確保

(回答)関係部局とも十分に協議・調整を行う中で、大学組織全体として効率的な組織体制の検討と適正な人員配置となるよう努めたい。

技能労務職要求

(交渉確認事項の遵守)

(回答)十分尊重し、適切に対応することは十分認識している。

(短時間再任用職員の補充)

(回答)業務に支障の無いよう、丁寧に対応させて頂く。

(保安員「職のあり方」)

(回答)本年9月に「あり方」に係る意見交換会を実施し、その後も執行部と意見交換の場を設定した。今後もこの取り組みを継続し、適宜意見交換を行っていきたい。

を強調

(神戸商科)保安員及び用務員の現行体制維持
(回答)今後も業務に支障のないよう適切な配置に努める。

(姫路工学)ワークセンターの直営堅持

(回答)あり方交渉の経過・労使確認は、十分に認識しており丁寧に対応したい。

(労働安全衛生体制確立)

(回答)キャンパスごとに安全衛生委員会を開催し、ヒヤリハット事例の共有等を通じて職場の危険箇所の共有や職員の健康管理について、新型コロナウイルス感染症防止対策の周知など安全教育にかかる啓発活動も実施している。また、平成28年度から労働安全衛生法に定められた有機溶剤を使用している研究室等の「作業環境測定」を各キャンパスで実施しており、今年度も年度中に実施できるよう準備を進めている。今後も安全衛生委員会を中心に職場の安全と職員の健康管理に努める。

職場環境改善

(超過勤務削減・全額支給)

(回答)今年度は、新型コロナウイルスの影響もあり、皆様方には大変ご苦労をおかけしている。超過勤務は、業務の繁閑等によって一定やむを得ない面もあるものの、適切な健康管理や、ワーク・ライフ・バランスを実現するためには、超過勤務の削減を積極的に進め、職員の総労働時間の短縮を図る必要がある。業務量の削減や仕事の効率化に取り組むとともに、管理職に対しては、超過勤務削減に向けた意識改革の徹底を図っている。あわせて、協定に定める上限時間等を超えるおそれがある場合には、職員の健康状態を確認した上で、職場の現状分析を行うとともに、超過勤務の削減に向けた対策を講じている。また、毎週水・金曜日を定時退庁日に設定するなど、様々な取組を行っており、引き続き、こうした取組を進めながら、超過勤務の削減に取り組む。なお、超過勤務手当は、事前命令・事後確認により確認されたものは全額支給するのは当然のことと認識している。

【神戸商科】

非正規職員の適切な配置、待遇面の改善

(回答)重要な役割を担っていることは認識しており、業務量や業務内容等も勘案した上で、正規職員の配置と合わせて適正配置に努める。待遇等は、パートタイム・有期雇用労働法の施行に伴い、本学においても令和2年4月から、正規職員の給料表に基づく給料設定を行うとともに、新たに地域手当及び期末手当を支給するなど待遇を見直した。また、非正規職員の人員は、皆様の業務負担の軽減を図るために本学が独自に取り組んでいるものであり、厳しい状況が予想される財政状況の中ではあるが、引き続き予算確保に取り組みたい。

(神戸商科)留学生対応に係る予算措置、母国語によるカウンセリング実施

(回答)留学生支援の観点から、留学生の利便性向上や良好な生活環境維持のために必要な予算確保に努めたい。

(神戸商科)新型コロナウイルス対策予算の確保と人員配置

(回答)新型コロナウイルス対策として県の補正予算も活用しつつ、遠隔講義機材整備への財政的支援や、感染防止用品(マスク・消毒液・非接触型体温計等)について、本部が一括購入し各キャンパスに配布するなど、できる限りの対策を講じた。引き続き、必要な予算の確保に努めたい。

(神戸商科)感染症法指定の罹患者が発生した場合の学生寮外への対応

(回答)兵庫県では、容態に応じて、医療機関、宿泊療養施設に入所の上、療養を行うこととされている。県の基本方針を踏まえ、国際学生寮の入寮者で感染者が発生した場合、寮内での感染拡大を予防するためにも、保健所等関係機関と連携を図りながら適切に対応したい。

(姫路工学)総務課事務システムの統一化

(回答)人事給与、旅費、財務会計システムは、それぞれが独立した大きなシステムとなっており、統一するためには、全てのシステムを新たに作り直す必要がある。今後の課題として受け止めたい。

(姫路工学)

(回答)来年度以降も、限られた財源の中で優先順位を付けて取り組まざるを得ない。来年度の県財政及び法人財政はさらに厳しい状況が予想されるが、大学課と連携して予算確保に努め、安全・衛生の

確保、教育・研究環境の確保を第一に考え、全学的視点から計画的に施設の改修に取り組みたい。

【姫路工学】保全室・修繕業務や機材を保管する場所の確保

（回答）建て替え整備中であることから、整備期間中は既存施設の空きスペースを活用するなど整備状況に応じた工夫をお願いしたい。

【追及と回答】
人員体制について

（組合）現場は、新たな事情・業務量が増えているのだから増員要求している。当然の訴えだ。超過勤務の実績等を示してもらいたい。

（回答）昨年度、上限を超えた職員は、24名（360時間超・720時間超は0名）。今期の4月から11月の実績としては、昨年比7.5%増加。主な増加要因は感染防止対策で、今後、入試・入学・決算業務等も控えており業務の負担軽減対策を図り、超過勤務の縮減に努めていく。

（組合）36協定の上限は360時間。原則が肝心である。感染症もあるが、職員の健康が心配だ。増員要求に対して、行財政運営指針にも触れられたが、組合員の思いとはかけ離れており、現場状況を、どう認識しているのか。

（回答）今期は特にコロナ対応に係る業務増があった。この間、独自に事務嘱託員の増員も図っており、必要なものは、今後も企画県民部と十分調整したい。

（組合）事務嘱託員が半数以上を占めており、制度が変わり条件面で改善したと言われるが、我々として納得できない。

（回答）現場の実情は認識しており、今後も県の方針を踏まえ業務の見直しを進めたい。また、学務課にはキャンパスの実情に配慮し事務嘱託員を配置。入試事務は大学本部からも職員を派遣する。また、5月の学生支援給付金への対応（650人の審査・申請）では、負担軽減対策として業務委託も実施した。

（組合）現場実態を認識して頂きたい。嘱託員の中には、この間、負担増により退職する方もいる。正規職員の割合を増やすことが重要だ。

【総務課事務システム】

（組合）システム等の改善は重要なものと考えおり、是非、具体検討をお願いしたい。

（回答）当面、現行システムの改修で対応したいと考えているが、各システム改修は業務縮減に繋がるものと認識しており、それぞれの改修を行いつつ、できることから取り組み事務負担を軽減したい。

（組合）改修を継続していくと全面改修が遅れるのではとの懸念もあり、現場の声を受けた対応を要請しておく。

技能労務職関係
保安員について

（組合）来年度へ向け、現場意見を踏まえた方向性もお聞きしたい。該当者は、個人ヒアリングを実施されたが、聞き取った内容を基本的に新年度体制の検討を強くお願いしたい。

（回答）保安員の年齢構成も含め、我々としても、あまり時間が残されていないと考えており、執行部に対して、我々の考え方を示した。これを基本に、新年度体制の検討をはじめ、今後、保安員の皆さん方に担って頂く業務の形、職場での対応等について検討しており、あり方交渉での確認に基づき丁寧に対応させて頂く。

【姫路工学・工作センターについて】

（組合）毎年、要請しているが、改めて、今後の工作センターのあり方を検討される際は、直営堅持での検討と対応をお願いしたい。

（回答）法人の組織のあり方や業務全般についての検証等を行う中で、今の要請についてはしっかりと受け止めていただくと。

【技能労務職の再任用制度について】

（組合）丁寧な現場対応をお願いしたい。

（回答）これまで通り丁寧に対応し、皆さんが働きやすい環境の確保に努めたい。

【交渉団発言と回答】
（神戸商科）保健室は、外部契約で経験者にカウンセリング対応していただいているが、現行体制の維持を要請する。学生の状況は、新型コロナウイルス感染症の影響で、リモートを通じた授業となり、期待していた学生生活となっていない。長時間のPC利用、スマートフォンでの授業があるが、その際の大学本部の対応には感謝したい。次に、事務嘱託員は、知事部局とは異なる大学独自の対応であることは理解するが、要求の出ている国際交流・学生課の正規職員1名増員は、従来業務に加えて、GBCの対応が加わったことから要求しており、現状、異なる事務を1人の職員が担当するため、事務嘱託員から、それぞれの業務に係る判断を求められている。後期となり、対面授業は増加したが、感染防止対策から、教室定員の二分の一の定員制限としており、未だ、100名以上の授業はWEB実施となっており、WEBシステムは安定してきたとはいえ、未だ接続不良もあり、入国できない海外の学生との通信が繋がらない場合への対応や、原因調査の対応もある。ネット環境もあると思うが関係部局と十分に話し合っている。現状、新型コロナウイルス感染症は暫くは続くと考えており、元の状況に戻るまでは一定の期間がかかる。新型コロナウイルス感染症への対応だけでも業務増となっている実態を踏まえた対応をお願いしたい。

（回答）事務局・教員あげて取り組みを進めており、ご理解頂きたい。学生課の増員要求については、県立大学においても県が制定した行財政運営方針に基づき大学全体で検討する必要がある。また、県立大学では、独自に事務嘱託員を配置しているが今後も考えていきたい。留学コーディネーターは採用の目途が立ち、この危機を乗り越えていきたい。

【姫路工学】人員要求は、建物の整備後、引っ越し等の事務量の増加を想定したもの。設備・機器整備引っ越しは関係者とのやりとりも増えてくる。設備の対応が可能な方の配置を。現場では事務嘱託員に頼れない業務もあり、事務嘱託員が増加すると正規職員の指導業務量も増える。システム改善は、旅費システムは似ているが他は違う。人事・給与システムが特殊であり、県で給与担当であった職員でも、なかなか使えないとの事だ。会計は、当然、違っても仕方ないが、担当職員が変わる度に処理だけで前へ進まないとの意見。

（回答）施設整備では、これまでの倍以上の規模となり、今後、機器の移設も計画的に進めていく必要がある。また、整備に際しての関係機関への届出などご苦勞頂いていることは認識している。今後、事務嘱託員も含めて適正配置に努めたい。また、事務嘱託員への指導対応にもご苦勞頂いている。改めて感謝申し上げるとともに、この間、実情に合わせて事務嘱託員を一名ずつであるが増員した。また、これに追加で派遣職員の対応も行ってきた。学務課での指導業務、新型コロナウイルス感染症への臨時的な業務増もあり、総務事務システム全体でできないものの、要望に基づき、改善できるものは検討したい。今後、従来の制度が残る、新たに国の制度にも対応していく必要もあり、現状、国と県で様式の異なるものは改善を考えていきたい。また、収入の取り方も検討したい。総務課、学務課含めて、改善に取り組みたい。

【最終確認と要請】
①神戸商科キャンパス 国際交流・学生課について

（組合）正規職員が1名で多くの事務嘱託員が配置されているが、我々としては、現状として無理があり、今期職場要求で一番の課題と捉えている。交渉団として、この要求について、ピンポイントで求めたいかがが。

（回答）先程も、GBC、留学生への対応に加え、新型コロナウイルス感染症の対応で、大きな負担となっているとの事をお聞きし、現場状況は認識している。県からの派遣職員の配置については、繰り返しで申し訳ないが、大学・キャンパス全体で考えていく必要があるが、我々としては、関係部局ともしっかりと協議し、業務に支障の無い執行

体制を整備したいと考えている。

（組合）交渉団の思いとしては、大学内の割り振りでは難しいという認識だ。この点、総務課長にも要請したい。いかがか。

（回答）私としても、現場からの強い声として、受け止めてさせて頂く。

②姫路工学キャンパス・保全室について

（組合）重要性は認識しているとの回答を頂いているが、配置されている工技員は、来年度末に再任用満了となる。その後、どうなるのか、現場では不安感が大い。これは、現業評議会も同様に考えている。現在、建替え整備計画に基づく整備が行われているが、その他にも施設は老朽化しており、キャンパス内の環境確保に向けて継続した対応が必要である。

（回答）配置職員の任用期間が残り少ないということとは認識している。設備の日々の維持・保全について、専門的な業務を担っていただいている。関係機関とも、しっかりと調整し取り組んでいきたいと考えている。

③播磨理化学キャンパス

（組合）現状認識は、学務課1名減で大変な状況になっていることだ。また、現場で、よく話し合ってもらいたい。支部から、キャンパスに課題を伝えても対応が十分でないとの報告を受けている。まずは、コミュニケーションをとってもらいたい。

（回答）キャンパスの実情も踏まえて、対応できる部分は対応したい。また、所属とは、毎月、会う機会もあり、風通しの良い職場づくりに努めたい。

④システム改善について

（組合）今日の回答でも、出来ることから改善に取り組むと聞いたが、現場の業務縮減対策で考えると、システム改善の影響は大きいと思う。回答では、全てのシステム入れ替えは、多額の経費を要するため困難との事であったが、計画的な検討をお願いしたいと思う。現場の率直な思いは、少しでも早くお願いしたいとのことだ。

（回答）我々としては、改善できるものがあれば改善し、より良いものにしたいとの思いがある。また、派遣職員への研修は、例年、春に実施してきたが、今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり夏ごろまで遅れた。新型コロナウイルス感染症の影響で致し方ない部分もあるが、大学のシステムに慣れて頂くよう取り組みを行いたい。また、マイナー的な改善になるが、システム改善は、今後も少しずつ実施したい。

（組合）派遣職員が、辛い思いをしなくて済むように対応いただきたい。来年度についても、予算確保を行い改善をお願いする。